

鹿児島大学が所蔵する近代化に関わる 法学・政治学分野の貴重書の電子化事業

プロジェクト実施担当者：鳥飼貴司教授（法学コース長）、米田憲市教授（法学コース、法学専攻長）、植本幸子教授（法学コース図書委員）

【「令和4年度 地域マネジメント教育研究プロジェクト」の対象事業】

「近世・近代」に関する歴史的に貴重な遺産（書籍、遺跡・遺物、文化財）の保存・データベース化し、これを用いた鹿児島の近世・近代史研究を活性化させる」

近世・近代史研究を活性化させるデータベースの構築作業手順（書籍の場合）

- （１）書籍の選定と画像としての電子化（電子画像化）=>死蔵書籍の閲覧可能化<=今回の実現目標
- （２）電子画像に含まれる文字情報の、A I などを活用したOCRによる電子化（電子文書化）
- （３）電子文書をデータベース化（数量化のための必要に応じたキー設定を含む）
- （４）データベースの提供や検索システムの構築・公開=>より広い利活用の実現=>研究の活性化

プロジェクトの目的

法学・政治学分野の視点から、鹿児島大学内で事実上死蔵されている「鹿児島の近現代」を知る上での重要史料を探索・選別し、鹿児島の近世・近代史研究を活性化させる上で優先度が高いと判断されたものを電子画像化することによって閲覧可能とし、広く一般の利活用を可能にするとともに、今後さらにOCRによる文字情報の電子化やそれを踏まえたデータベースの構築などのより高度な利活用を実現するための条件を整える。

プロジェクトの内容（１）

鹿児島大学学内の史料の中で優先的に電子化するべきものを評価・選別する。

【選別作業の対象①】

法文学部2号館の旧法学コース資料室に大量に配架されているながら鹿児島大学附属図書館に登録されていない、戦前から戦後しばらくまでの裁判所や司法省・法務省の刊行物で「部外秘」「禁転載」などとされている図書群（廃棄が検討されている。）



司法政策教育研究センター資料室に仮置きされている、旧法学コース資料室の諸史料（米田憲市撮影）



【選別作業の対象②】

鹿児島大学附属図書館が多くを固有所蔵している、我が国の近代化を担ったエリートの情報が集約されている旧帝国大学のOB会名簿である『學士會會員氏名録』をはじめとする鹿児島大学附属図書館で貴重書に位置付けられ、破損可能性などが考慮されて事実上閲覧できない史料群



鹿児島大学附属図書館が所蔵する『學士會會員氏名録』（米田憲市撮影）



段ボールから書籍を取り出し、戦前から戦後しばらくまでの裁判所や司法省・法務省の刊行物で「部外秘」や「禁転載」と書かれていたり、裁判所、検察庁などの実務運用のために刊行された書籍を中心に一冊一冊チェックした。当時の司法制度とそれを取り巻く社会情勢の事情を反映する貴重なものばかりであったが、およそ「外国の法制度やその関係学説」、「家庭裁判所における家族・少年事件の運用指針」、「陪審や行政事件を含む訴訟実務の運用指針」、「その他調査など」と分類された。そのなかで、沖縄以南を対象としたものであるが、法務府法制意見第4局「法務資料第320号 南島村内法（民の法の構成訴因・目標・積層）」（昭和二十七年二月）は、「生ける法」を明らかにしようとするものであり、奄美以南の南西諸島文化圏の「法と社会」を理解する手がかりとして、これを見出したことは収穫であった。重要と思われるものを、国会図書館デジタルアーカイブズでの電子画像提供の有無を確認した。

「氏名」「原籍」「学位称号」「卒業年次」「学科」「勤務先職業」「宿所」が、およそ氏名の50音順に掲載されており、また、「地方別會員」の章があるなど、電子画像を用いての研究探索にとって利便性が高いこと、単一様式の表組みであり記載内容に同じ文字が多数現れるためAIなどの技術に馴染みやすく、OCRによる文字情報の電子化やデータベースを構築する上で利便性が高いと考えられたため、『學士會會員氏名録』に絞って評価した。『學士會會員氏名録』の全国の所蔵・公開状況を調査して、鹿児島大学附属図書館の固有所蔵であるかの確認を、国立国会図書館オンライン、国会図書館デジタルアーカイブズ、Webcat Plus、Ciniiなどによって行った上、他館との重複所蔵の場合には他館の公開状況について、各館のWebページで閲覧手続を確認したり、直接電話で問い合わせ確認したりする作業を行った。

プロジェクトの内容（２）

鹿児島の近世・近代史研究を活性化させる上で優先度が高いと判断されたものを電子画像化する。

史料としての利活用のニーズの大きさ、国立国会図書館デジタルアーカイブズでの公開状況、他館における所蔵状況と閲覧の容易さ、鹿児島大学附属図書館で電子画像を所蔵し閲覧可能にすることによる当該資料の利活用の便宜と研究の拡大可能性の観点から、下記の2つを電子画像化することとした。

『學士會會員氏名録』大正5年（玉利文庫430）

『學士會會員氏名録』大正6年（玉利文庫431）

プロジェクトの成果と成果物



	TIFF		JPG		PDF	
	ファイル数	ファイルサイズ	ファイル数	ファイルサイズ	ファイル数	ファイルサイズ
大正5年版	498	459Mb	498	511Mb	1	203Mb
大正6年版	533	661Mb	533	621Mb	1	238Mb

成果物DVDからのスクリーンショット
右上段：大正6年版の「地方別會員」のあるページ。
右下段：大正5年の「イ」のページのひとつ。



○大正5年版に15202人、平成6年版に17184人が掲載され、鹿児島支部に、それぞれ、138人、140人がリストされており、各人の情報を得られる。

○これまで閲覧不能だった大正5年版、大正6年版について、鹿児島大学附属図書館の下記の手続により電子画像版での閲覧・取得可能になった。

<https://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/ja/collection/about>

○『學士會會員氏名録』は、「明治43年」「明治44年」「大正元年」「大正2年」「大正9年」「大正14年」「大正15年」版についての電子画像を鹿児島大学附属図書館が所蔵しており、今回の成果物が加わることで、国立国会図書館デジタルアーカイブズと合わせ、各館が所蔵する全21巻のうち16巻、75%超が鹿児島にしながら電子画像で閲覧可能になった。

成果物により、史料の網羅性が高まり、『學士會會員氏名録』について上記「近世・近代史研究を活性化させるデータベースの構築作業手順」の（２）以降に展開する意義が高まった。